

鈴木ひとみ市政報告



鈴木ひとみ

ごあいさつ 今年の夏は、「地球沸騰化」という言葉も生まれるほど、暑い日々が続きました。日本国内各地で豪雨、洪水が発生し、一方では日照りが続いた地域もあって農作物が不作になっています。更に地球規模では大洪水や大火事により、多くの生命、文化、自然環境が失われました。地球温暖化に対して、正面から向き合わなければいけない時期に来ているのではないのでしょうか。各個人でできることは限られていても、多くの人に取り組むことで少しでも状況の改善が図れると思います。

令和5年9月市議会定例会 一般通告質問から

子どもたちにとってより良い教育環境を! 考えよう、学校再編

昨年10月から各小学校区で、「学校のあり方を考える会」が中心になって、保護者の学校再編に対する意見がまとめられました。その中で多かったのは、子どもの「社会性」を育むことや、「多様な授業展開」を考慮して、「クラス替えできる規模の学校を望む」という声でした。

子どもの特性に応じたきめ細やかな指導を希望する場合などの「選択肢」として、「小規模校も必要」という意見もありました。

学校再編検討委員会では、今年度中に素案をまとめ、来年度は各地域で再度の話し合いを行い、令和9年度までに新しい学校の枠組みをスタートさせる予定ですが、早期の再編を希望する保護者の声も多く、再編の時期を早めることも検討するという事です。



小中一貫校の房南学園



最も大切なことは「子どもたちにとってより良い教育環境を丁寧に考えていくこと」です。グループディスカッションや到達度別の授業の工夫、子ども同士の関係性の広がりなど、ある程度の人数が必要ですが、一方、多様性を尊重し少人数で個性を大切に学習の場も保証すべきです。

丁寧な議論を行いながら、学校再編を進めていくことを求めています。